

ふれあい



上／横吹の観音堂 中／国道20号沿いのぶどう畑の中にある一里塚跡
下／大善寺の厨子と十二神将立像



協力：甲州市教育委員会

着する。現在の橋は昭和三十四年に架け替えられたもので、五十メートルほど上流には、古い橋の橋脚のみが残る。旧道はこれよりさらに二十メートルほど上流を渡っていたようだ。

柏尾橋周辺には多くの史跡がある。橋の傍らに建つ近藤勇の石像板垣退助率いる官軍と近藤勇が戦った古戦場跡の碑、柏尾坂戦争で亡くなった会津藩士の墓碑、柏尾白山平経塚、そして、七百年以上の時を越えて建つ大善寺本堂。その柱や床には歴史の重みを感じら

れる。この境内には勝頼の大叔母にあたり、追われる勝頼にこの寺を一夜の宿として提供したとされている理慶尼の五輪塔がある。付近をゆっくりと散策してみるのも良い。

柏尾の交差点から旧道は右へと下っていく。この辺りは国見坂と呼ばれ、甲府盆地が目の前にひろがるところだ。笹子峠をはじめ、険しい道歩いてきた旅人が、この景色に心癒やされたであろう。やがて勝沼宿へ入る。左手には勝沼氏館跡、右手には本陣跡に立

つ本陣槍掛けの松、その先の江戸時代後期の東屋敷と明治初期の西屋敷からなる仲松屋住宅は、土蔵と格子造りに商家の面影が残る。さらに右手にある旧田中銀行社屋や明治天皇勝沼行在所跡碑を見て過ぎる。「役場入口交差点」南西角にあるぶどう園には、ぶどう産地勝沼にふさわしく、樹齢百年を超える甲州ぶどうの古木もある。

甲州街道は、勝沼宿を過ぎると栗原宿、石和宿、甲府柳町宿へと続く。その道筋を見つめる先には、白い南アルプスの嶺が輝いていた。



山梨の旧道を訪ねて

一道一会

甲州市／甲州街道(鶴瀬・勝沼)

古くは笹子峠を越え、郡内と国中を結ぶ甲州街道の要衝であった鶴瀬宿から勝沼宿までを歩いた。

鶴瀬宿から先の旧道は、国道から分かれ右手沢沿いの上っていくが、道筋が判然としないため、国道を歩くことにした。そこから、七、八分のところに、「古跡血洗沢」の標柱、さらにその先にも「古跡鞍懸」の標柱が建つ。

国道はやがてトンネルにさしかかる。旧道は、トンネル左手を迂回し、共和集落へ向かっていったというが、今はトンネル手前を右手に上る横吹観音堂への参道を歩いてみた。参道を上りきると、眼下に日川の渓谷に沿って通る国道、笹子峠も一望できる。本堂の左手には、街道を行き交う馬子が安全を祈願して奉納した馬わらじがうす高く積まれた草鞋堂がある。観音堂に、また街道随一の難所笹子

つ本陣槍掛けの松、その先の江戸時代後期の東屋敷と明治初期の西屋敷からなる仲松屋住宅は、土蔵と格子造りに商家の面影が残る。さらに右手にある旧田中銀行社屋や明治天皇勝沼行在所跡碑を見て過ぎる。「役場入口交差点」南西角にあるぶどう園には、ぶどう産地勝沼にふさわしく、樹齢百年を超える甲州ぶどうの古木もある。

甲州街道は、勝沼宿を過ぎると栗原宿、石和宿、甲府柳町宿へと続く。その道筋を見つめる先には、白い南アルプスの嶺が輝いていた。

甲州街道鶴瀬宿は、国道20号の立会橋に並行して架かる古い橋を渡ったところにある。国道と交差する手前には、口留番所を示す標柱が建てられ、ここが郡内から国中に入る要衝だったことがうかがえる。国道を横切り、百メートルくらいが残る旧道を歩くと、右手におよそ二百年前の常夜灯があり、宿場の面影を感じることができる。



宿の面影を残す鶴瀬の常夜灯

再び国道に合流し、左手を流れる川へとただらかに広がるぶどう畑をながめながら、しばらく進むと、左下に一里塚跡が見えてくる。ぶどう畑の中にあるので、見逃してしまいそうだ。

そこから五分ほどで柏尾橋に到着する。現在の橋は昭和三十四年に架け替えられたもので、五十メートルほど上流には、古い橋の橋脚のみが残る。旧道はこれよりさらに二十メートルほど上流を渡っていたようだ。